

雑 報

編集後記

○編集幹事会

日時 平成13年3月5日(月)午後4時より
 場所 中央校舎1階 会議室
 議題 東京女子医科大学雑誌71巻5・6号査読
 結果審議, その他について

○集会幹事会

日時 平成13年2月27日(火)午後5時より
 場所 中央校舎1階会議室
 議題 第17回吉岡弥生記念講演会(第324回例会),
 第67回総会, その他について

日時 平成13年3月27日(火)午後5時より
 場所 中央校舎1階会議室
 議題 第17回吉岡弥生記念講演会(第324回例会),
 評議員会, 第67回総会, その他について

○第323回例会

日時 平成13年2月24日(土)午後1:00~4:30
 会場 臨床講堂I
 次第 開会の辞
 挨拶
 第13回山川寿子研究奨励金授与式
 第9回佐竹高子研究奨励金授与式
 第12回山川寿子研究奨励金受賞者研究発表
 第8回佐竹高子研究奨励金受賞者研究発表
 特別講演「最近の医療事故から」
 (加藤法律会計事務所・東邦大学医学部客員教授)
 加藤 濟仁
 一般演題 8題
 閉会の辞

投稿論文の査読を担当して、遺伝子関連の論文が本誌においても増えてきていることを実感する。最近の社会の動きに関連して感じていることを述べる。

先日、遺伝子解析研究の進め方について、厚生労働省、文部科学省、経済産業省の三省共通の倫理指針が告示された。この指針は遺伝子研究について定められたものである。一方、臨床における遺伝子診断に関しては、現在、関係する8学会(日本遺伝カウンセリング学会、日本遺伝子診療学会、日本産科婦人科学会、日本小児遺伝学会、日本人類遺伝学会、日本先天異常学会、日本先天代謝異常学会、家族性腫瘍研究会)が共同で「遺伝学的検査に関するガイドライン(案)」を作成し、検討・修正中である。

遺伝子研究の流れは、1990年代の単一遺伝子病の原因遺伝子解析研究の時代から生活習慣病における single nucleotide polymorphisms (SNPs) の解析研究の時代に着実に進化をしている。ヒトの全ゲノムが明らかになってくると、個人の遺伝子についての情報によって疾患の予防が可能となり、各個人に対して安全で効果的な薬剤の開発がなされてくることが予想される。21世紀には、多くの疾患の成因が明らかになり、疾患に悩む患者にフィードバックできるようになってくるであろう。

臨床において、亡くなられて間もない患児の両親に病理解剖の話をお勧めするとき常に感じることであるが、その承諾をいただく背景に、そして医学研究の進歩のバックには、医師の献身的な医療行為に対する患者とその家族からの信頼感の存在がある。患者と家族が医学の進歩と医学的真実の追求のために、医師に対して文字通り身を挺して貢献をしてくださるのである。このような患者と医師の関係が、遺伝子解析研究においても成立していくことが大切なのである。

ゲノム医学の進歩のためには、疾患の患者のみならず健常対照者からの協力が必要になってくる。遺伝子研究においては、遺伝子という究極の個人情報、プライバシーそして人権を守るという人間としての「こころ」が重んじられなければならない。「研究」というハードは「こころ」というソフトの上に成り立っていることを各自が再認識することが必要であろう。

(2001.4 小児科学 斎藤加代子)